

2007年9月3日

橋本市  
市長 木下 善之 殿

社団法人 日本建築学会近畿支部  
支部長 渡邊 史夫

## 高野口小学校校舎の保存・活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本会の活動につきましてはご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴市立高野口小学校校舎につきましては、本会近畿支部は2003年(平成15)2月にきわめて建築的価値の高い建造物であるとして、当時の所有者であった旧高野口町宛てに、その保存と活用を要望いたしました。今般、市町村合併によって、貴市が高野口小学校の所有・管理者となられたことから、ここにあらためて、その価値をご説明申し上げ、その保存・活用をお願いする次第であります。

貴市におかれましては既にご高承のことと存じますが、この建物は、別紙の「見解」に示しますとおり、建築史上において高い価値を有しております。また同時に、橋本市の歴史を語る上においても、かけがえのない歴史的建造物であると考えられます。

よって、学校の整備計画に際しては、その価値を十分に認識され、かけがえのない文化遺産を後世に継承していただけるよう深甚なるご配慮をたまわりたく存じます。

なお、本会はこの建物の保存・活用に関しまして、技術指導などできる範囲でお手伝いさせていただきたいと考えておりますことを申し添えます。

敬具

本要望書は近畿支部の責任において表明いたします。

本件に関してご返信賜ります折には、下記へ連絡下さいますようお願い致します。

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター5階  
日本建築学会近畿支部 事務長 児玉哲也 (TEL 06-6443-0538)

2007年 9月 3日

## 高野口小学校校舎についての見解

(社)日本建築学会近畿支部  
近代建築部会  
主査 橋寺 知子

この校舎は主に以下の点において、大きな価値を有すると考えられる。

まず、昭和12年建築の大規模な木造建築である点が貴重である。この校舎が建てられた昭和戦前期には、関東大震災による被害もあり大都市を中心とした地域の学校は、鉄筋コンクリート造で新築されるケースがほとんどであった。もちろん、大都市でも市街地周辺部、さらに郡部の町村では木造建築は作り続けられたが、そうしたものも戦後にその大半が鉄筋コンクリート造に建てかえられている。そうした中で、これだけの規模の木造校舎が建てられ、しかもいまだに使われ続けていることはきわめて貴重である。

また、壮麗な和風の意匠も貴重である。全体の構成は西洋建築に倣いながら、いわゆる和風の意匠を各所に配する小学校校舎の設計は、わが国で明治期から大正初期ごろまでよく見かけられたことである。しかし、この校舎が建てられた昭和戦前期という時期に至っては、概ね西洋風のデザインで作られるのが一般的になっており、式台を模したような玄関部分に代表されるこの校舎の本格的な和風デザインは、極めて貴重な事例であると判断できる。

さらに、この校舎が建てられた時期までには、わが国の小学校校舎は二階建てで建てられるのが一般的であったが、この校舎は平屋で80メートルにもおよぶ長大なスケールで建てられており、その翼廊と渡り廊下で構成される開放的な空間構成は、他に類を見ない貴重なものとなっている。

これらのことは、土地や木材資源に恵まれ、高野山の参拝客で賑わったという高野口町の地域の特性をよく表した結果と言えるだろう。これについてさらに加えれば、これだけ優れた建築を実現した設計者の和歌山県技師も高野口町出身であり、施工したのも地元の大工であることも見逃せない。したがって、建築史上のみならず、地域の文化財としての価値をも備えている。

さらに言えば、こうした貴重な文化的ストックを教育の現場で使い続けていけることは、重ねて意味のあることだと言えるだろう。歴史的価値を持った環境の中で教育を行うことが、児童の情操教育・地域教育にとってもかけがえのない価値を持つことは言うまでもないからだ。

しかも、この校舎は木造であっても耐震・耐風に極めてすぐれている。わが国の小学校校舎の設計に関しては、昭和のはじめには耐震・耐風のさまざまな努力が行われていた。東京・大阪などではそのための詳細な設計基準が作られていることが知られている。これは関東大震災や昭和 9 年の室戸台風の影響もあった。この校舎においても、基礎や小屋組みに極めて慎重な工夫と補強が施されており、当時の木造校舎の耐震・耐風の傾向をそのまま実現している。したがって、現在でも構造的な意味での傷みはほとんど見ることができず、極めて強固な状態が維持されている。

以上のような所見により、この高野口小学校校舎は、建築史上の価値、地域文化財としての価値、および教育環境としての価値においても極めて優れたものと判断でき、しかも耐久性においても問題がない。したがって、この校舎は、本来の用途を維持されてゆくことが最も望ましいと結論付けることができる。

以上

